

病気のつらさを知ってほしい

交通事故などの衝撃で脳脊髄液が漏れ続け、激しい頭痛などを起こす「脳脊髄液減少症」(髄液漏れ)の県内患者らが治療法確立などを求める署名活動を行っている。11月中旬に請願書に添えて県議会に提出する予定だ。髄液漏れについては既に群馬以外の全都道府県議会が同趣旨の意見書を国に提出している。県同症患者会の小野寺都志子代表(高崎市山名町)は「この病気のつらさは家族にも伝わらない。一人でも多くの人に知ってほしい」と訴えている。【塩崎崇】

脳脊髄液減少症

04年12月、夫の健さんが運転する車が右折車と衝突。健さんはハンドルが支えなくなったが、助手席の小野寺さんは大きく前のめりになった。年明けから首に痛みを覚え、倦怠感や頭痛を感じ始めた。昨年夏からは注意力が散漫になり、やけどを

注射して漏出を止める「ブラッドパッチ療法」が有効とされるが、厚生労働省は「有効性、安全性が確認できない」として健康保険の適用外としている。

県内患者 治療法確立求め署名活動

を受けていた女性だった。これがきっかけで今年6月、別な1人を加えて3人で患者会を結成。7月から署名活動を始めた。

小野寺さんは事故後、複数の病院を訪ねたが、髄液漏れと診断されたのは今年9月。東京の病院でブラッドパッチ療法を受け、症状はかなり改善した。だが、健康保険の対象外で検査を含め約32万円かかった。1度の治療では効果が薄いとされ、治療費は1000万円を超えると思われる。

今月上旬、小野寺さんは藤岡市内のスーパードで署名を行った。健さんと実妹も心援に駆けつけ、5時間で約3000人の署名を集めた。同市上大塚の主婦、内林三千代さんは「以前、むち打ち症になったが、あのつら

さを一生抱えるのは大変」と署名した。署名は各種団体を通しても募っており、今月末にとりま

とめるという。請願書は①実態調査と患者・家族への支援体制の確立②研究推進と診断

と話す。

法・治療法の確立③ブラッドパッチ療法を含む新しい治療法への健康保険適用——を求めている。

小野寺さんは「運動を通じて県民にもこの病気が浸透したという手応えを感じている。国はこの思いを受け止めてほしい」と話す。



買い物客に署名を呼びかける小野寺さん(右)―藤岡市内で

小日向証言は虚偽

向野人被告(38)は最高裁に上告中。供述には信用性がないと主張。小日向

弁護側は山田、小日向両被告の証言の違いに言及。同会会長の矢野治成

被告を首謀者とする事実認定には「誤りがある」と指摘した。また、女性

「私が誤射してあやめてしまった人や遺族に心からおわび申し上げま

議論の動向を注

多選禁止 制定に慎重

大澤正明知事 記者会見で、神知事の連続4選止る条例が全て成立したこと「知事選で一貫に反対し、私自ら8年としている。例制定については議論の動向を注

知事選方式の策定の原案を財務部長の順で査事が最終査定を小寺前知事は3度まで知事、副

正明知事によるネジメント強化として

の「予算編成本の決定方式を委方式を復活するいて、県財政課

県は15日、来算編成で、各部原案を知事が査める「知事査定すること」を明た。小寺弘之助の「予算編成本の決定方式を委方式を復活するいて、県財政課